



S-GLAP 1期生の修了者5名が卒業！



2026年3月11日。大学の卒業式が執り行われる中、国際交流センターの一角に特設エリアが設置され、2022年度に始動したShowa Global Liberal Arts Program (S-GLAP)の1期生が卒業ガウン姿で卒業証書を片手に、もう一つの達成の証である『S-GLAP修了証』を受け取りに来てくれました。1期生の登録者は全体で49名。その内最終的な英語スコアや対象科目の単位数、プログラムポイント等の条件をクリアして修了したのはAdvancedコース3名とRegularコースの2名の合計5名でした。特に3年次に「GLAPゼミ」という全編英語で実施される演習科目を共に履修し、学科の垣根を超えて情報交換や交流を続けてきたAdvancedコースの3名は仲良く来室し、S-GLAPの感想を語ってくれました。3人ともグローバルに活躍するためのマインドと自信を身に付け、まっすぐとそれぞれの目標に向かっていく姿がとても眩しかったです。



他学科に同じように英語と学科の専門性を大事にしている友人ができたのはすごいモチベーションに繋がった！

英語での授業や国際交流の科目や活動とあまり接点がない専攻だからこそS-GLAPを通して色んな情報が入ってきやすくなった。

修了生の声

単位修得やスコア達成は思ったより大変だったから、4年間の自分自身の達成感や成長が形になって評価されるのは、純粋に嬉しい！

S-GLAPとは？

専門分野に関わらず、グローバルに活躍するために必要な語学力・知識・スキル・マインドを修得し、学部学科の垣根を超えた仲間と共に磨き合うことを目的とした、4年間の全学横断認定プログラム。留学がカリキュラムに組み込まれていない学科の1、2年生であれば誰でも登録でき、3年次にコースを選択して、卒業までに所定の修了要件を満たすことで修了証が授与され、学んだ証を形にできる。

CIE職員コラム

私が国際交流センター（CIE）に入職したのは2012年、ちょうど国際協力室からセンターへと転身した初年度。メンバーは私を加えて5名、書庫のような小さなオフィスで、センターのブログすらなく、入職後すぐ提案して投稿を始めた。そんなCIEにとつての転機は同年「グローバル人材育成推進事業」の採択だ。新規協定校の開拓、短期・長期留学プログラムの新規立ち上げ、当時から珍しかったビデオ会議システムの導入等、大学の国際化に関わるあらゆる取り組みが加速し、現在の「グローバル教育に強い大学」の土台を確立した。現在はセンターの人員も、受入留学生数も3倍以上、協定校数は8倍と増え、国際交流の機会もいわゆる渡航留学だけではなく、TUJへの国内留学、キャンパスでの国際交流や留学生との国際共修などに力を入れている。時代の流れ、学生のニーズを読みながら、これからもCIEの挑戦と発展は続く。

国際企画課 舟木恵美



2012年当時のCIE
現在の6号館1階 共同研究室の一部

国際交流センター（CIE）

☎ 03-3411-5249

✉ cie@swu.ac.jp

CIE公式Instagram



教職員用CIEWEB



大学HP
「国際交流」



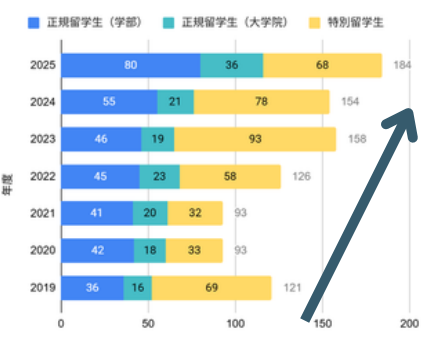
CIE在生
ポータルサイト

データでみる国際交流

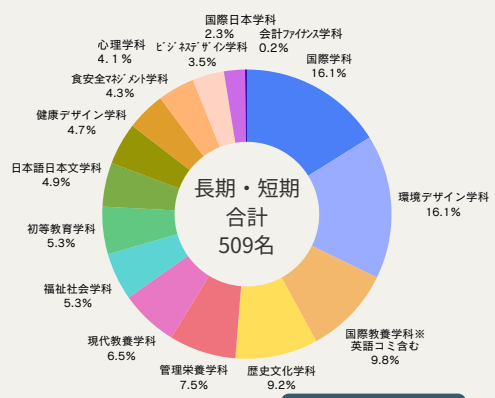
OUTBOUND

2025年度は、長期のカリキュラム留学、短期の海外研修、TUU単位互換プログラムも合わせて918名（長期：468名、短期：450名）の学生が「留学・海外研修」を経験しました。カリキュラム留学以外に、自ら応募して短期・長期プログラムに参加した学生は合計509名で、学科による人数差はあるものの、全学科の学生が参加しました。学科が独自で主催・運営する10種類の海外研修も含め、年間合計58のプログラムが展開され、中でもTUUへの国内留学には34名、昭和ポストンへの留学は478名でした。学科の海外研修では、大半のプログラムがヨーロッパ・北欧等（チェコ、オーストリア、ドイツ、イタリア、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ギリシャ、フランスなど）の複数か国を訪問しました。

留学生数推移 (正規生・特別留学生のみ)



2025年度 学科別派遣プログラム参加者割合



INBOUND

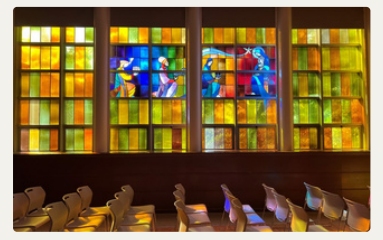
2025年度は、年間で246名の外国人留学生を受け入れ、内訳は、正規留学生116名、特別留学生68名、特定外国人科目等履修生12名、特定外国人研究生4名、そして、短期プログラム学生が46名でした。中国、韓国、イタリア、ベトナム、カンボジア、アメリカ、マレーシア、フランス、イギリス、インドネシア、モンゴル、ミャンマー等多様な国から本学プログラム（長期・短期）への参加がありました。「Showa Direct 4.5」は2年目の募集となり、7名の新生が海外の提携高校等から本学に直接入学しました。コロナ前の2019年から2025年の7年間における留学生数（正規生及び特別留学生のみ）の推移はグラフのとおりです。特に、正規留学生数が増えてきており、日本人学生と留学生が同じ授業内で交流できる場面が増えてきました。今後も新たな海外提携高校からの入学が見込まれ、更なるキャンパスの国際化が期待されます。

*グラフにはブリッジプログラム、進学準備生、大学院研究生は含まない。

七色の光に隠された、昭和ポストンの記憶

昭和ポストンの講堂「Rainbow Hall」。太陽の光が両側のステンドグラスを通して差し込むと、室内が美しい七色の光に包まれることから、その幻想的な名が付けられました。では、なぜこの場所に美しいステンドグラスがあるのでしょか。実は、1988年に人見先生がこの地を購入する前、ここはカトリック教会が運営する児童養護施設「Nazareth」でした。1940年代、教会の活動の一環として、モスヒルにホームレスの子どもたちを受け入れる施設として建てられ、1985年まで多くの子どもたちの拠り所となっていたのです。現在の昭和ポストンは、当時の建物を改装して利用しているため、キャンパスの随所に教会の名残が息づいています。普段は見られませんが、Rainbow Hallのステージ裏には、今もキリストと子どもたちを描いた壁画が残されています。現地を訪れる際は、ぜひ午前中の静かな時間に足を運んでみてください。差し込む七色の光とともに、子どもたちの未来を願い続けたこの場所の温かな歴史が、そっと心に響くはず。

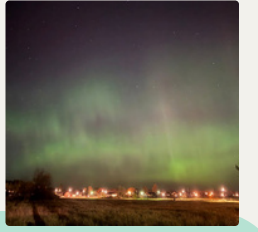
昭和ポストンTRIVIA



協定校 PICK UP !

SWEDEN : ダーラナ大学 DALARNA UNIVERSITY

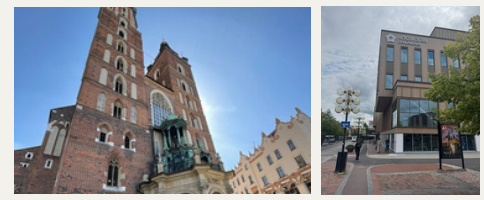
Dalarna University (ダーラナ大学) は、スウェーデン中部のFalunとBorlängeにキャンパスを持つ、落ち着いた雰囲気のある大学です。キャンパス内は、木材を着かした北欧らしい美しいデザインが広がり、学習スペースと休憩スペースが充実しているため、リラックスして学問に専念できます。また、留学生を多く受け入れ、英語での授業を設けているため、私達、留学生にとって、学びやすい環境が整っています。



学生体験談

大学では、観光学の授業を履修し、観光の文化・社会的影響など様々な側面に着目しながら、観光マネジメントについて学びました。実践的なグループワークが多く、自分自身が主体的に学んでいることを実感でき、とても良い経験になりました。日常生活では、アパートや学外での交流を通し、多くの友人に恵まれ、毎日楽しく過ごすことができました。特に、スウェーデンの文化であるFika*を楽しんだり、森や湖でのハイキングやウィンターアクティビティを通し、美しい北欧の自然を堪能しました。大学のStudent Unionが、多くのイベントを開催してくれるため、様々な人と交流し、多くの経験を得る機会がありました。天候による不安が大きい北欧ですが、友人と過ごす時間のおかげで楽しく乗り越えることができました。 国際学科4年 F.F.さん

*Fika: 甘いものを食べながらコーヒーを飲むスウェーデンの習慣



GLOBAL 2025年度卒業生に見る国際交流プログラム参加割合

52.8%

卒業生の国際交流プログラム参加率

2025年度中に卒業した学部生1,573名のうち、在学中に短期・長期を含めた留学、またはTUU単位互換プログラムやオンキャンパスの各種交流プログラムのいずれかに参加したことがある学生は831名と、全体の52.8%でした。また、2つ以上のプログラムに参加した経験のある学生は385名で全体の約25%に上り、中には言語交流プログラムに毎学期参加し、合計16回のプログラム参加経験があるリピーター学生も存在します。

複数回参加した学生の平均参加プログラム数は3.43で、プログラムの組み合わせとして一番多いのは渡航+オンキャンパスの141名(36.6%)、次いで渡航+オンキャンパス+オンラインの3種経験者が93名(24.1%)でした。

複数参加プログラム 組み合わせランキング TOP3

*カリキュラム留学との組み合わせは除いたランキング

参加プログラム組み合わせ	人数
LEX英語 × LEPP英語	21名
Power English × ポストンサマーセッション	19名
LEX英語 × ポストンサマーセッション LEPP英語 × ホストシスター	12名

*LEX: 対面式の1対1言語交流プログラム

*LEPP: オンラインの1対1言語交流プログラム



国際交流センターでは、各種プログラム実施や学生への新たな体験の機会提供にあたり、学内の教職員だけでなく、外部の方にも様々なご協力をご支援を頂いています。今回は2025年度に発足した「留学生×日本人学生 異文化体験企画プロジェクト」へのご支援とご助言を頂いている【せたがや国際交流センター】の方に、学生達の活動に関する感想を頂きました！

大学生が主体となって取り組む国際交流プロジェクトは、地域と社会に温かな循環を生み出す意義深い活動だと思います。今回のプロジェクトも、学生ならではの柔軟な発想と行動力によって、国を越えた「一緒に学ぶ体験」を子どもたちに届ける試みでした。遊びを通じて異文化理解を育む取り組みとして、日本・韓国・ベトナムといった各国の暮らしや価値観が息づいており、シンプルながらも創造性や集中力を引き出す魅力がありました。参加した子どもたちも、夢中で遊ぶなかで自然と異文化に触れながら、楽しい時間を共有することができました。このような活動は、多文化共生を身近な体験から育てる素敵な試みです。学生が企画・運営を担い、言葉や文化の違いを乗り越えながら協働する経験をきっかけに、地域と大学の連携がさらに進み、人と人をつなぐ国際交流の輪が広がっていくことを心から願っています。

せたがや国際交流センター マネージャー 黛 和晃様

外から見たCIE



日本語教育センター NOW

留学生向け日本文化体験 『蒔絵』教室の開催

2024年度に開設された日本語教育センター（JLE）では、留学生を対象とした日本語科目／一般教養科目を年間約70科目開講しています。科目運営のほかにも、日本文化体験イベントを開催し、留学生が日本の伝統文化に親しみ、その背景にある価値観や歴史を学ぶことで、日本への理解を深める機会を重視しています。2025年度には、伝統的な工芸品の一つ、「蒔絵」体験を実施しました。蒔絵師の先生による講和と実演のあと、参加学生は実際の作品作りに挑戦しました。参加学生は、「実際に漆を塗ったところに蒔いた粉が絵として浮かび上がってくる様子が魔法のように素敵だ」と振り返り、これが「蒔絵」という言葉の由来であることを実体験を通して学びました。詳しくは、[大学HPの日本語教育センターニュース](#)をご覧ください。



NEWS 2025

交換留学生や海外から直接入学する留学生向け 留学生寮がオープン！



2025年8月に大学から電車で30分の場所に、新留学生寮を開設しました。全60室がシングルルームのトイレ・バス・キッチン・家具家電付きで、寮内には管理者が常駐しています。周辺にはスーパーやドラッグストアなど生活に必要な店がそろい、初めて日本で生活する留学生でも安心して新生活を始めることができます。寮内には自然と交流が生まれるラウンジスペースや、静かに集中して学習できる自習室を備えており、多様な文化を持つ学生が共に暮らしながら日常の中で交流を深められる環境を提供しています。

学生目線で留学を身近に

CIE学生スタッフが
多様なコンテンツで
アピール



担当CIE職員の声

CIEの公式インスタグラムは、2025年6月から運営を開始しました。

“CIE学生スタッフ”として在学生在を学期毎に採用し、1期生3名、2期生4名が活動してくれました。1年間に約100本ほどの投稿を公開することができました。

主なターゲットは、在学生在、高校生、留学生で、学生が主体となって、学生目線で面白いと思ってもらえるような投稿を日々考えて取り組んでもらっています。職員だけでは作れない感覚や目線を大切に、少しでも多くの学生に国際交流に興味を持ってもらえると嬉しいです。ぜひ、アカウントのフォローをお願いします！

学生スタッフの声

CIE学生スタッフとして活動する中で、「惹き付けられる投稿」を発信する難しさを実感しました。日々の広告やキャッチコピー、カラー配色を意識して見るようになり、物事を見る視点も大きく変化したと感じています。また、責任感・追求心・挑戦心も以前より強くなりました。学年・学科を超えた学生との毎週のミーティングも刺激的で、SNSを通して国際交流や留学のきっかけ作りに携われたことは貴重な経験でした。

特にCIE職員インタビューや国際交流イベント体験記の投稿は印象に残っています。合計16本の投稿制作や新アイコン制作などに、自分の「やってみよう！」を予想以上に実現できた充実した期間でした。



国際企画課 坂本竜児

国際学科2年 Y.C.さん